

Title	メタフシカ 第34号 彙報/奥付
Author(s)	
Citation	メタフシカ. 34 p.149-p.151
Issue Date	2003-12-25
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/66687">https://hdl.handle.net/11094/66687</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 【彙報】

### ●山形頼洋教授ご転出

旧哲学哲学史第一講座（フランス哲学）の頃から長年指導に当たってこられた山形頼洋教授が二〇〇三年九月三十日をもって辞職・退官され、同志社大学に転出された。

山形頼洋教授は、昭和五十六年四月に大阪大学文学部助教授に赴任され、平成元年七月十九日、文学博士（大阪大学）の学位を授与された。平成二年四月に同教授に昇任され、平成十一年四月大学院重点化に伴い、同大学大学院文学研究科に配置換えとなり、平成十五年九月三十日に辞職されたことになった。

同教授の、主たる研究テーマは、現象学という方法によって、感情と身体と時間意識を人間の根源的な存在様態の問題として捉えることであり、このテーマを、同教授は、研究者としての初期から現在に至るまで驚くべき一貫をもって追求してこられた。この研究は、同時にサルトル、メルローポンティ、フッサール、ヘルト、アンリ、レヴィナスなどのテキストについての内在的で非常に綿密な解釈を積み重ねることによって進められ、日本におけるフランス現象学研究の水準を高めるものとして、学会で高く評価されてきた。その精密なテキスト解釈と、人間の根源的な存在様態にどこまでも迫ろうとするその真摯な研究態度は、学生にも精神的感化を与え、同教授のご指導により、哲学哲学史講座はその伝統を継承発展させ、日本に於けるフランス哲学研究の拠点として高く評価されているところである。

我々は、山形頼洋教授の本講座における長年にわたる多大の貢献に感謝するとともに、今後のますますのご活躍を祈念申し上げる。

（入江）

### ●哲学哲学史

現在、専門分野・哲学哲学史には、学部生として二年生七名、三年生八名、四年生八名（哲学・思想文化学専修所属）、大学院生として博士課程前期課程に九名、後期課程に九名が在籍しており、里見軍之、入江幸男、吉永和加の各教官が専門分野・文科基礎学や現代思想文化学や臨床哲学所属の各教官と連携しつつ、教育・研究指導に当たっている。

本年度の講義・演習は、「Gadamer: Wahrheit und Methode, I, II」「現象学の根本問題」「近代哲学史」（里見教授）、「フランス哲学基本

文献読解Ⅰ」（山形教授・前期）、「現代哲学概説」「信念文のパスルと問答」「規範の正当化問題」「様相論理学Ⅰ、Ⅱ」「Kant: Kritik der Urteilskraft」「ドイツ哲学基本文献読解Ⅱ」（入江教授）という題目で行われている。また、その他に、現代思想文化学の教官・学生と合同で、修士論文や博士論文の作成演習が定期的に開かれ、活発な発表討論がなされている。

非常勤講師としては、伊豆蔵好美先生（奈良教育大学）、鹿野忠良先生（本学理学部）、坂下浩司（南山大学）をお招きし、先生方にはそれぞれ、「ホッブズと17世紀哲学の諸問題Ⅳ」（伊豆蔵先生）、「文科と理科に橋は架かるか：Bergsonの哲学」（鹿野先生）、「古代哲学史」（坂下先生）という題目で講義をさせていただいている。（吉永）

### ●現代思想文化学

現在、専門分野・現代思想文化学には、学部生として二年生七名、三年生八名、四年生八名（哲学・思想文化学専修所属）、大学院生として博士課程前期課程に二名、後期課程に四名が在籍しており、浅野遼二、溝口宏平、望月太郎の各教官が専門分野・文科基礎学や哲学哲学史や臨床哲学所属の各教官と連携しつつ、教育・研究指導に当たっている。

本年度の講義・演習は、「愛の形而上学」「愛の形而上学」批判「へ生の形而上学」批判「ヘーゲルの『有』論」「キェルケゴールの『絶望』論」（浅野教授）、「英米哲学基本文献読解」「E・フッサール『イデーン』読解Ⅰ、Ⅱ」（溝口教授）、「フランス哲学基本文献読解Ⅱ」「18世紀フランス哲学・思想研究」「フランス近代哲学史概説」（望月助教授）という題目で行われている。また、その他に、哲学哲学史の教官・学生と合同で、修士論文や博士論文の作成演習が定期的に開かれ、活発な発表・討論がなされている。

非常勤講師としては、谷徹先生（立命館大学）をお招きし、「フッサールとフランス現象学」という題目で講義をさせていただいている。（望月）

### ●臨床哲学

大学院には、看護・介護職などからの社会人入学者を含め前期課程十名、後期課程十一名の合計二十一名、学部（倫理学）は二年生四名、三年生七名、四年生十四名の計二十五名が在籍しており、驚田清一、

中岡成文、本間直樹、紀平知樹の各教官が哲学哲学史、現代思想文化  
学所属の各教官と連携しつつ、教育・研究指導に当たっている。

本年度の講義は、「現象学とは何か」「身体の現象学Ⅰ・Ⅱ」（齋田教  
授）、「人は何を欲求するか」「現代倫理思想の諸問題Ⅱ」（中岡教授）、  
「現代倫理思想の諸問題Ⅰ」「コミュニケーションの技法と実践」「進  
化と倫理Ⅴ」（本間講師）という題目で行われている。

非常勤講師としては、霜田求先生（大阪大学医学系研究科）、柘植  
尚則先生（北海学園大学）をお招きして講義をしていただいている。

また研究室の活動は、ホームページ（<http://www.letosaka-u.ac.jp/cbh/>）  
『臨床哲学』、『臨床哲学のメチエ』などを通じて公開している。

（紀平）

【編集後記】

『メタフュシカ』第三十四号（通算）をお届けいたします。論文十編と研究室の彙報を掲載しました。毎年当たり前のように発行しているわけですが、質を高めることに努力しつつ、こうした地味な作業を継続することに大きな意味があるのだと思います。改善すべき点多々あるうと思しますので皆様の忌憚のないご批判と、ご支援を御願いたします。

（入江）

【編集委員会】

『メタフュシカ』第三十四号編集委員

委員 入江幸男（哲学 哲学史・教授）

望月太郎（現代思想文化学・助教授）

中岡成文（臨床 哲学・教授）

補佐 吉永和加（哲学 哲学史・助手）

メタフュシカ 第三十四号

平成十五年十二月二十日 印刷  
平成十五年十二月二十五日 発行

編集兼  
発行者

大阪大学大学院文学研究科哲学講座  
〒565-0873 豊中市待兼山町一―五

印刷所

株式会社 図書印刷 同 朋 舎  
〒600-8655 京都市下京区中堂寺鍵田町二